

特定非営利活動法人 全国精神障害者地域生活支援協議会(あみ)

第15回全国大会 徳島大会アピール

第15回あみ全国大会は、阿波の国徳島での開催となりました。開催に当たり、私たちが大切にしてきたものは、つながりです。お金は持たないけれど人のつながりがある。お金がないからこそつながりを力にして大会ができると考えました。

実行委員には、愛媛、香川、高知の方々からも参画いただき、いわば四国大会とも言えます。そして、障害福祉分野にとどまらず、他分野の企業関係者、地元商店街やご近所の方、ボランティア関係の皆様等々、非常に多くの地元ならではのつながりを土台に築きあげてきた大会となりました。ひまわりの花飾りをはじめとする会場づくりやプログラムには、大会開催にかかわったすべての方のおもてなしのところが溢れるものとなりました。

3月11日に発生した「東日本大震災」は被災地沿岸部に大津波を招き、さらに福島においては原子力発電所事故もあり未曾有の大惨事となりました。あみの会員事業所も被災し、利用メンバーへの救援活動をはじめ、施設の損壊等による事業・活動の停止など、今まで味わったことのない非日常のなか苦境に立たされています。このような事態に対し、義援募金活動、情報収集と発信、救援物資支援、状況調査チーム派遣、現地での対策会議出席など、時に関係他団体との協働により行ってきた支援活動ですが、今後も引き続き出来る限りの支援を考案し、全国の仲間とともに実行していきたいと思えます。被災地の長くなろうであろう生活再建・事業復興の営みにしっかり寄り添いたいと思えます。

一方で障害者福祉制度の改革に向けた動きに対して、地域生活支援活動の真髄を訴えかける事が重要です。「障がい者総合福祉法(仮称)」による新たな制度環境と、それを含め「障がい者権利条約」という国際スタンダードの批准ならびに国内での反映ということが大きな目標となっている今、この改革の流れに与し、必要と思われる情報の発信や投げかけを続けることが極めて大きな課題です。また行政施策のなかで、重点を置くべき疾病対策とそれに関連する対事業の対象に精神疾患が加わったことを踏まえ、再構成される各地の保健医療計画の中身の作成にも関与していくという新たな取り組み課題もあります。私たちは地域生活支援の担い手として、日々の実践のなかで捉えた状況と事実をもとに、声を挙げ問題を提起し、状況を変えていくよう様々な動きを作り出していかなければなりません。

本大会は2日間で延べ724名の参加者により、住まうこと、働くこと、そして私たちの活動実践等について、‘くんだりくんだり’なんでも話そうとのテーマで真摯な議論が展開されました。記念講演で河野秀忠氏からは、「生身の人間を支援するための制度・政策をつくるべきところが、自立ではなくまさに「自滅支援法」を象徴として、今の社会は、ボロボロである。しかし、私たちはその社会を変えていく夢の懸け橋をかけることに力を注いできたのである。あみへの期待もそこにある。」との叱咤激励をいただきました。

次年度の開催地神奈川は、横浜・川崎という突出した政令市と圏域と呼ばれるその他の地域の違いが顕著な地域です。それゆえ地域環境条件での異なりの中で実践のあり方を考えるという全体のコンセプトがほのかに浮かび上がってきます。この徳島で見出したことを、次年度につなげましょう、そしてより深めましょう。

ほな色々あるけど、みんなでがんばろうなあー!!

2011年7月16日

全国精神障害者地域生活支援協議会 第15回全国大会 in 徳島 参加者一同